

1. 題名・調査地・調査者

アイデンティティの柔軟性と重層性に関する研究—東アフリカの牧畜社会における他者と自己の構築—

調査地：ケニア共和国

調査者：中村香子・内藤直樹（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

2. 研究の目的

東アフリカの牧畜社会は、絶えず民族間で家畜の奪い合いを行う好戦的な人々であるといわれている一方、その帰属意識の柔軟性においてもよく知られている。彼らの柔軟なアイデンティティのありかたの背景には、人々が生活の拠点を臨機応変に移動させ、多様で広範な生態環境を利用することや、旱魃や牛疫、民族間紛争といった緊急時には集団を離散させて対応するという牧畜経営の特質が指摘されている（Schlee 1989）。また、これらの社会の多くは「年齢体系」という社会システムによって統合されているが、それぞれの社会がもつ年齢体系における類似性は、共通の文化的アイデンティティとなって民族間を友好的に結びつけることもあれば、逆に、紛争時には軍事モデルとなって暴力を発動する枠組みとなることも指摘されている（Kurimoto 1998）。

一般的に、他者の構築と自己のアイデンティティの構築は表裏一体をなし、同時に進行すると考えられるが、本研究では東アフリカの牧畜社会を事例に、民族の内部や民族間の文化的な差異の表象や解釈の過程を分析し、移動を常態とする人びとの民族アイデンティティに柔軟性や重層性が創出される機序を解明することを目的とする。個人や集団が、さまざまな場面において、どのようなロジックを用いながらアイデンティティを構築しているのかという問いを解明するために、本研究は次の二点に注目した。第一点めは、年齢体系という在来の社会システムのアイデンティティの構築基盤としての役割（中村が担当）、第二点めは、国会議員の選挙というナショナルなイベントにおける民族やクランのアイデンティティの再構築の過程（内藤が担当）である。調査地は、ケニア共和国サンプル県とマルサビット県であり、調査対象はマー系のサンプルと、レンディーレとサンプルの境界域に居住するアリアルである。アリアルはクシ系のレンディーレとサンプルの混成集団である。

3. 研究の内容と得られた知見の概要

第一点においては、サンプルの人びとの年齢体系をめぐる文化的・社会的な実践に注目した。具体的には、「モラン」とよばれる未婚の青年層のありかたや、人びとが人生において「モラン」として過ごす時間の比較などをおこなった。その結果、「進歩的」で「非伝統



図1. サンプルとアリアールの居住地

的」な高地と「サンプルらしく」「伝統的」な低地という地域的な分節が発生していることが明らかになった。この分節の存在により、ひとびとは自他のあいだの差異を意識化したうえで、自己をポジティブに評価しながら、さまざまな選択肢を意識的に選び取っており、こうした能動的な選択によって、「モランである」というアイデンティティが高地と低地で異なって定義されていったのと同時に、高地人、低地人という新たなアイデンティティも発生していた。

第二点においては、2006年と2007年の二つの国会議員選挙に注目し、従来は「レンディールとサンプルの間のどこか」にあるゆるやかな文化共同体であったアリアールが、ひとりの強力な候補者による演説や、選挙にともなって選挙区ごとに国から分配される資金をめぐって、1)「マサガラ」という明確な輪郭をもった新たなアイデンティティとして創出され、2)ID登録の推進によって成員を確保し、3)ライサミス県の新設による民族ベースの地方自治の可能性を獲得していく過程を明らかにした。

第一点では、民族の内部で異なるアイデンティティが構築される過程を解明し、第二点では、政治的資源をめぐってアイデンティティが本源化される過程を解明したと言えるだろう。これらは、すなわち、本来は微細な差異を多く含んでいる集団が、一枚岩的な集団に分割・再編される過程の解明であった。



写真1. サンプルのモラン（未婚の青年）



写真2. 国会議員選挙の投票に集まったアリアールの人びと

参考文献

- Falkenstein, M. 1995. Concepts of ethnicity and inter-ethnic migration among the Ariaal of Kenya, *Zeitschrift für Ethnologie* 120: 201-225.
- Fratkin, E. 1986. Stability and Resilience in East African Pastoralism: The Rendille and Ariaal of Northern Kenya, *Human Ecology* 14(3):269-86.
- Holtzman, Jon, 2004. The local in the local: Models of time and space in Samburu district, northern Kenya. *Current Anthropology*, 45(1): 61-84.

- Kurimoto, Eisei and Simon Simonse (eds), 1998. *Conflict, Age & Power in North East Africa: Age System in Transition*. Oxford: James Currey.
- Schlee, Gunther, 1989. *Identity on the Move: Clanship and Pastoralism in Northern Kenya*. Manchester: Manchester University Press.
- Spencer, Paul, 1965. *The Samburu: A Study of Gerontocracy in a Nomadic Tribe*. London: Routledge and Kegan Paul.
- Spencer, Paul, 1973. *Nomads in Alliance: Symbiosis and growth among the Rendille and Samburu of Kenya*. Oxford University Press, London.
- Spencer, Paul, 1976. *Opposing Stream and the Gerontocratic Ladder: Two Models of Age Organization in East Africa*. *Man* 11: 153-174.
- 松田素二 2004 「変異する共同体：創発的連帯論を超えて(〈特集〉共同体という概念の脱/再構築)」、『文化人類学研究』69(2): 247-270.
- 内藤直樹 2004 「牧畜民アリアルールの複合的なアイデンティティ形成-『同一経験の共有』に基づく帰属意識形成の事例から」田中二郎他(共編)『遊動民-アフリカの原野に生きる』昭和堂、567-592.

4. 成果発表の具体的な予定

口頭発表(実施済み)：

- 内藤直樹2008. 「新たな民族アイデンティティ『マサガラ』の出現：北ケニア牧畜民アリアルールが経験した割礼と選挙」、日本ナイル・エチオピア学会第17回学術大会(於青森、4月19-20日)
- 中村香子2008. 「『モランをやる』『モランをやめる』—ケニア・サンプル社会における若者の割礼・結婚の個人化傾向と年齢体系の変容—」日本アフリカ学会第45回学術大会(龍谷大学、2008年5月24日-25日)